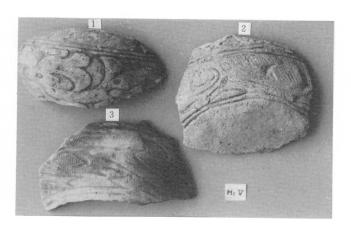
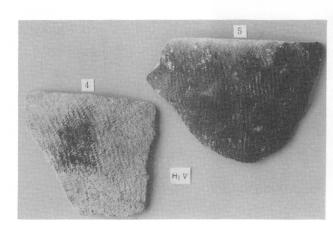
(H1 V出土)

$$☆ (1) → { 第7群土器
大洞C1式 }$$

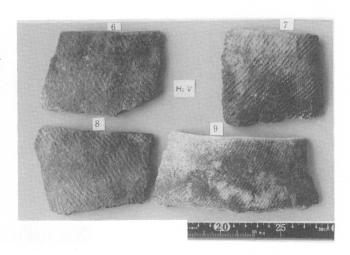
$$☆ (2 · 3) → { 第8群土器
大洞C2式 }$$

$$※ (1 ~ 3) は、精製土器$$

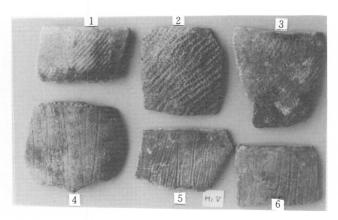


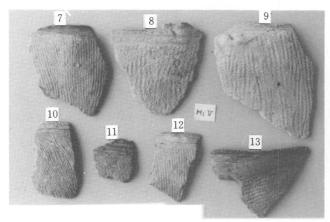


$$\Diamond$$
 $(4\cdot5)$ → $\left\{ \begin{array}{l} \hat{\pi}\,8\,\sharp\pm\Xi\\ \\ \\ \\ \\ \end{pmatrix}$ \times $(4\sim9)$ →口縁直下より縄文が施文 されるもの。



(H1 V出土)





$$\diamondsuit$$
 (7 · 9 · 11 · 12) →
$$\begin{cases} \hat{\pi} 7 \ddot{\pi} \pm \ddot{\pi} \\ + \tilde{\pi} C_1 \vec{\pi} \end{cases}$$
 \diamondsuit (8 · 10 · 13) →
$$\hat{\pi} 8 \ddot{\pi} \pm \ddot{\pi}$$

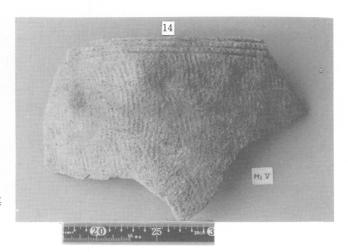
※ (7・9・11・12) は肩部が強く張る タイプである。

※口頚部に平行沈線文をもち、肩部下 に斜行縄文を施文するタイプ。

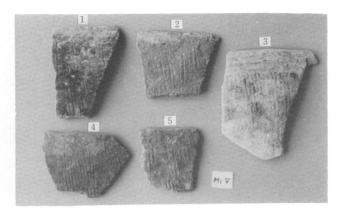
※口縁直下より斜行縄文を施文するタイプ。

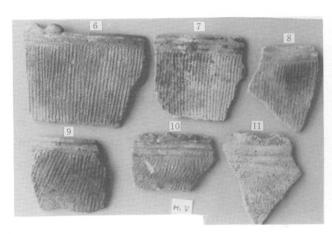
※口縁直下より条痕文を施文するタイプ。

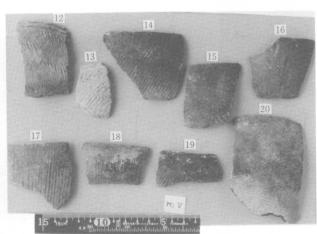
※ (4) のように、円形刺突文と条痕 文のあるタイプは稀少である。



(H1V出土)







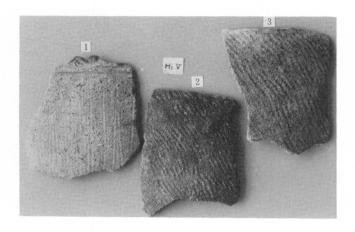
※ (1 · 2 · 4 · 5 · 17 · 18) →口縁直下より条痕文を施文するもの。

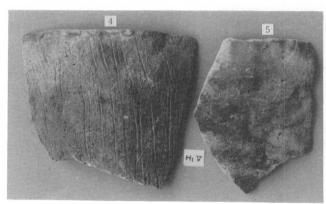
※ (3・6~8) →口頚部に平行沈線文を有し、肩部下に単軸撚糸文の施文されるもの。

※ (9・11・19) →口頚部に平行沈線文を有し、肩部下に斜行縄文が施文されるもの。

(H1 V出土)

※ (2・3) →口縁直下より、縄文が施 文されたタイプ。





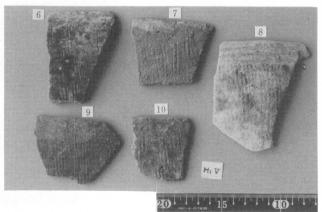
※ (5) は無文のタイプ。

※(1)は、口頚部に平行沈線文が横走し、 肩部以下には、条痕文が施文されるもの。

※(8)は、横走する平行沈線が頚部に施 文され、肩部下には、単軸撚糸文が縦走 するもの。

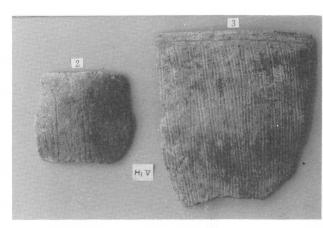
☆ (1・4・6・7・9・10) は、条痕 文が施文されるものである。

> なお、これらのものは、a 類→ 「平縁」のもの、b 類→小突起 を有するもの、c類→口縁~頚 部が無文で肩部から条痕文の施 文されるものに分けられる。



(H1V出土)





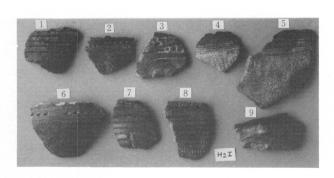
※ (1・3・5) →口頚部に平行沈線文を 施文し、肩部下に条痕文を施文するもの。

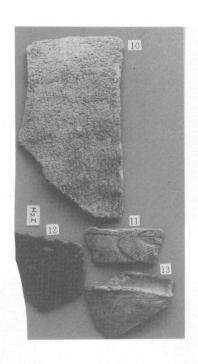
※ (2) →口縁直下より条痕文が施文されるタイプ。

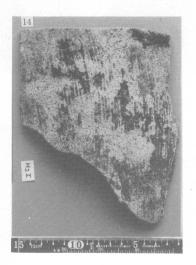
※(4)は、口縁が小波状を呈し、平行 沈線文が横走し、肩部が急再度に張る タイプである。



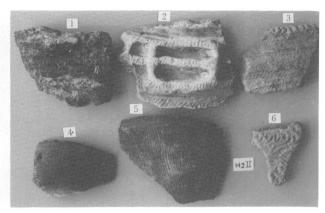
(H2 I 出土)

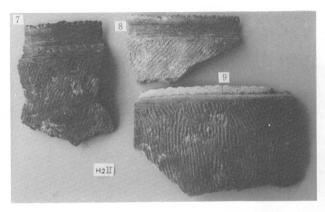




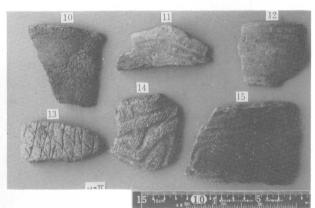


(H2Ⅱ出土)

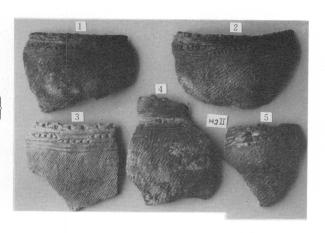


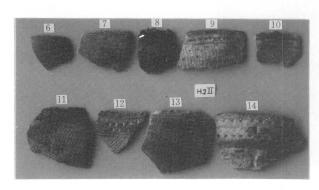




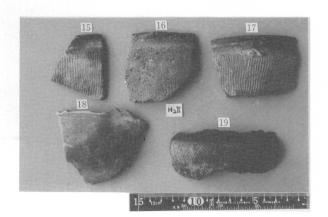


(H2Ⅱ出土)



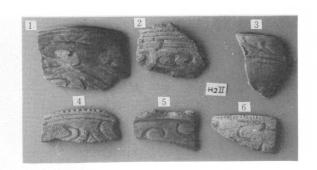


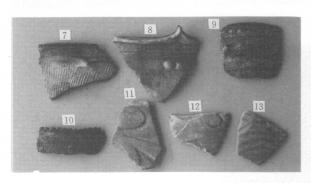
**
$$(6 \cdot 7 \cdot 10) \rightarrow \left\{ \frac{精製土器}{(朱ぬり)} \right\}$$



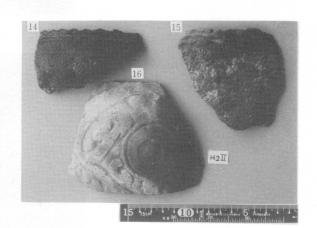
-186 -

(H2Ⅱ出土)





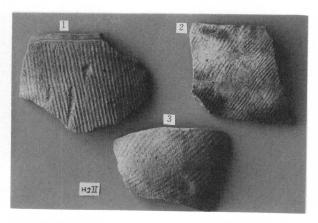
※ (9·10·14·15) →粗製土器

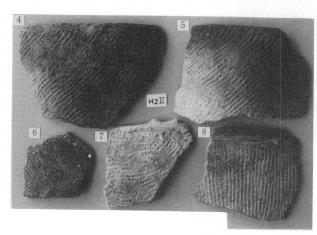


(H2Ⅱ出土)

☆ (1 · 8 ~10) → { 第 8 群土器 大洞C2 式 }

※口頚部に平行沈線文が横走し、肩部下に単軸撚糸文の施文されるもの。



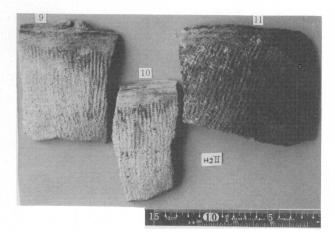


※口縁直下より斜行縄文が施文されるもの。

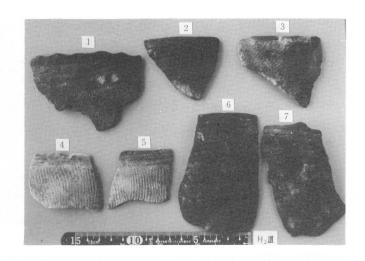
☆ (11) → { 第8群土器 } 大洞C2式 }

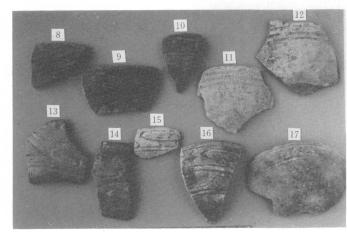
※口頚部に、平行沈線文が横走し、肩部下 に斜行縄文が施文されるもの。

※観音林遺跡では、大洞C1式土器で 「羽状縄文」が施文されるものは少 ない。

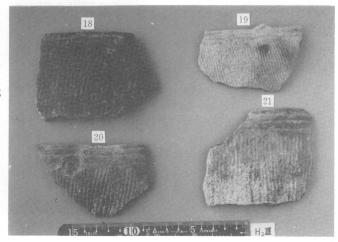


(H2Ⅲ出土)





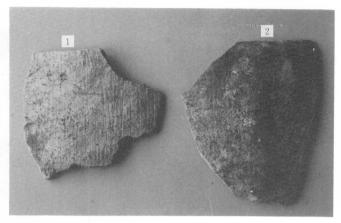
※口頚部に平行沈線文が横走し、肩部下に単軸撚糸文が縦走するもの。

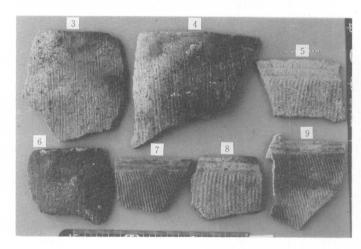


(H2Ⅲ出土)

※口縁直下より条痕文が施文されるも の。

☆ (4) →口頚部に平行沈線文が施文 され、縦走する条痕文があるもの。

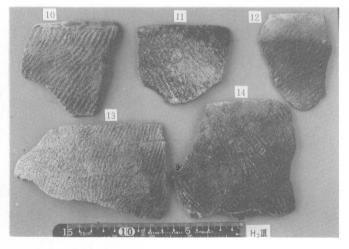




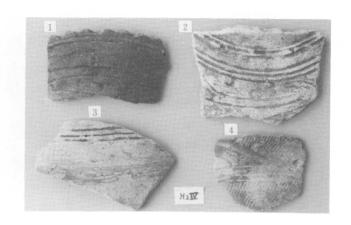
☆ (5・7~9) → (5・7~9) → (5・7~9) → (5・7~9) → (5・7~9) → (5・7~9) → (7 0) → (7

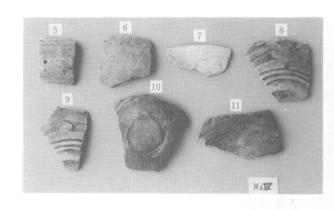
※口頚部に平行沈線文が横走し、肩部 下に単軸撚糸文が施文されるもの。

※口縁直下より斜行縄文が施文されるも の。

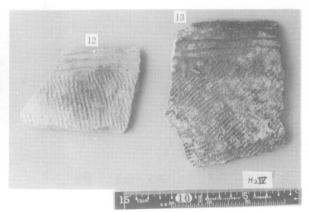


(日211出土)





☆口頚部に横走する平行沈線文を有し、胴 部には、斜行縄文が施文されるタイプ。

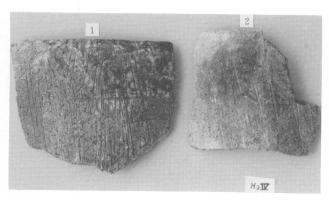


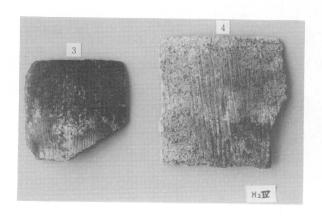
(H2N出土)

%(1-4) は、条痕文が施文されるものであるが、

(1・3・4) は、口縁直下より条痕 文が縦走するタイプ。

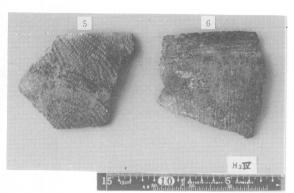
(2) は、口頚部が無文帯となり、肩 部下に条痕文があるタイプ。





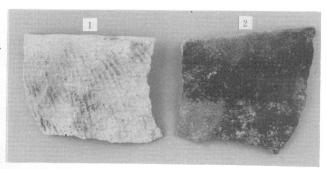
※(5)は、口縁直下より斜行縄文が施文されるタイプ。

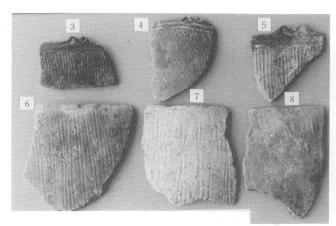
※ (6) は、頚部に平行沈線文が横走し、肩部 下には条痕文が縦走するタイプである。



(日211出土)

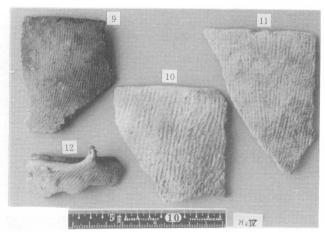
※ (12) →は、把手のある器形である。



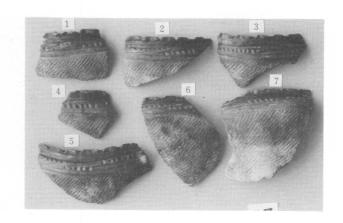


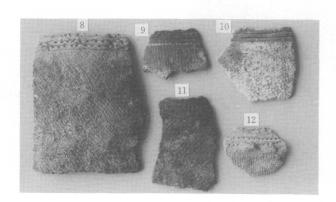
※この(3~5)は、2こ1対の小突起を付すもので、頚部には平行沈線、肩部下には、斜行縄文、撚糸文(単軸)が施文されるタイプである。

※(6~8は、口頚直下より条痕文)が 施文されるタイプである。

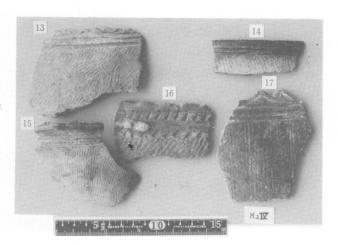


(H2N出土)





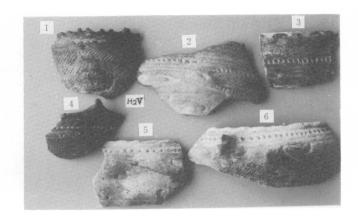
※ (17) →口縁に小突起をもち、頚部には、平行沈線文がめぐり、肩部下に条痕文が縦走するタイプ。

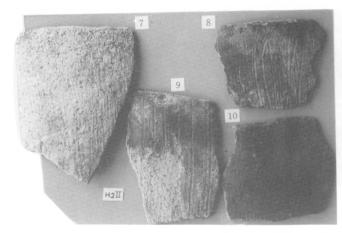


(H2 II·H2 V出土)

 $☆ (1 \sim 6) \rightarrow \begin{cases} 第7 群土器 \\ 大洞C1式 \end{cases}$

 $%(1\sim6)$ は、刺突文のあるタイプ。





☆ $(7\sim10)$ → $\left\{ \begin{array}{c} 第8群土器\\ 大洞C2式 \end{array} \right\}$ ※口縁直下より条痕文が施文されるタイプ。

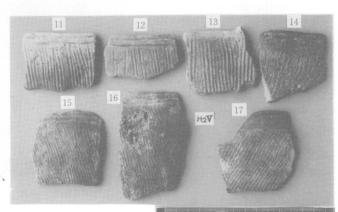
☆ (11·12) → $\left\{ \begin{array}{l} \hat{\pi} \, 8 \, \tilde{\pi} \pm \tilde{\pi} \\ \\ \text{大洞} \, C_2 \, \vec{\chi} \end{array} \right\}$

※ (11・12) は、条痕文のあるもの、

(13) は単軸撚糸文の施文されたもの、

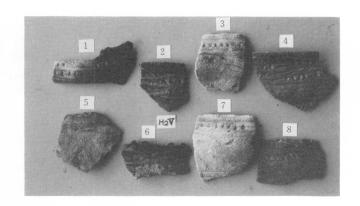
(14~17) は斜行縄文の施文されたも

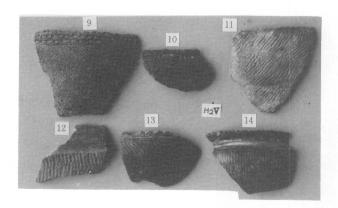
のであるが、これらの(11~17)には、 頚部に平行沈線文がめぐる。

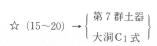


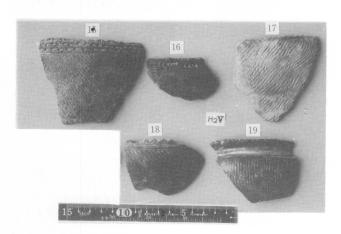
(H2V出土)

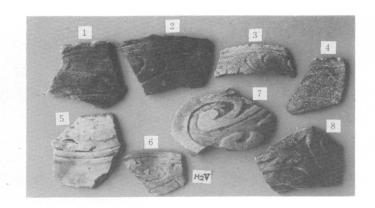
☆ (1~8) → { 第7群土器 大洞C1式 }

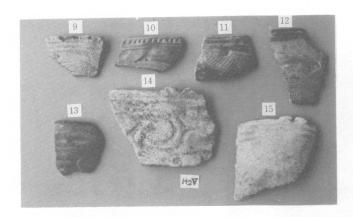


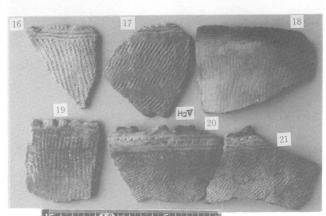






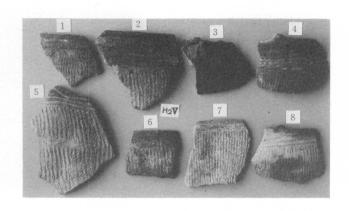


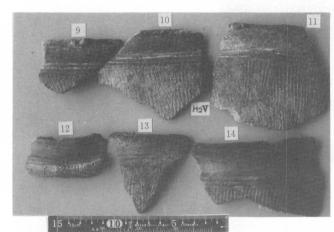




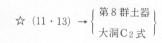
15 had 1 1 10 1 day had 5 day 1 1 1

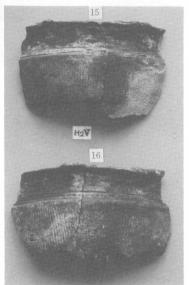
☆ $(2 \cdot 9 \cdot 10)$ \rightarrow $\begin{cases} 第7 群土器 \\ 大洞C1 式 \end{cases}$ % このものは、同一個体である。 ⇔ $(3 \cdot 4 \cdot 5)$ \rightarrow $\begin{cases} 第7 群土器 \\ 大洞C1 式 \end{cases}$ ⇔ $(1 \cdot 6 \sim 8)$ \rightarrow $\begin{cases} $8 群土器 \\ 大洞C2 式 \end{cases}$

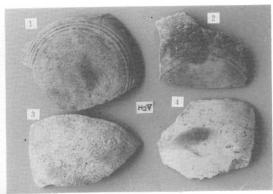


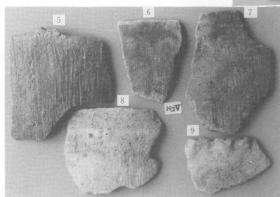


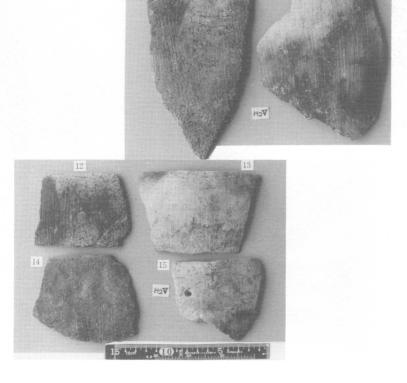
$$\diamondsuit$$
 (12·14~16) →
$$\left\{ \begin{array}{l} \hbox{$\hat{\pi}$ 8 群土器} \\ \hbox{χ;$RC$$_2$ $\vec{\Lambda}$} \end{array} \right\}$$



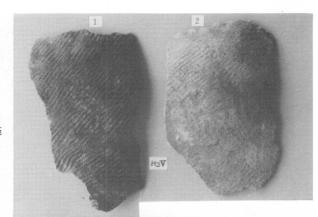


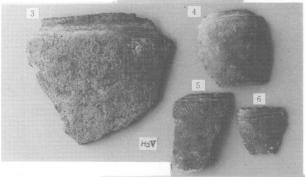






※口縁が小波状を呈し、斜行縄文の施 文されるもの。

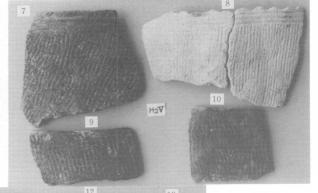


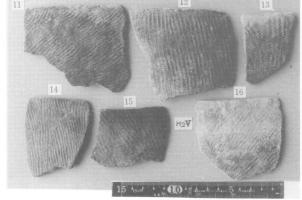


☆ (7 · 9 ~16) { 第8群土器 大洞C2式 }

※ (7・9~11, 13~16) は、口 縁直下より斜行縄文の施文され るタイプ。

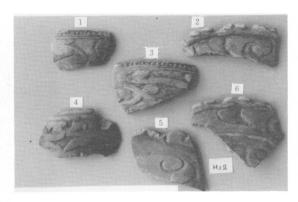
☆ (12) は、単軸撚糸文が縦位に 施文されるもの。

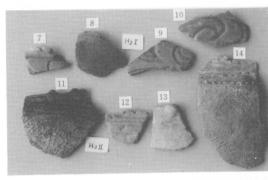




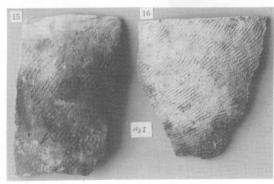
(H2 I . H3 Ⅱ 出土)

※ (1~7, 9·10) は精製土器である。





※この (15·16) は、既述したように、口縁 直下より斜行縄文が施文されるタイプであ る。

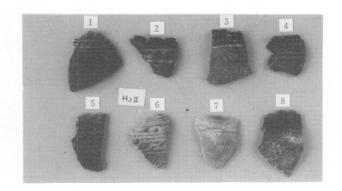


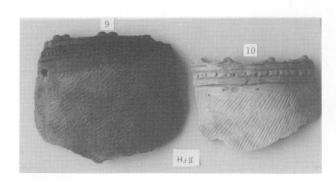


$$☆$$
 (17~20·21) \rightarrow $\left\{ egin{array}{l} \bar{\mbox{\mathfrak{R}}} \bar{\mbox{$\mathsf{7}$}} \bar{\mbox{$\mathsf{#}$}} \bar{\mbox{$\mathsf{2}$}} \bar{\mbox{$\mathsf{2}$}} \bar{\mbox{$\mathsf{1}$}} \bar{\mbox{$\mathsf{2}$}} \bar{\mbox{$\mathsf{1}$}} \bar{\mbox{$\mathsf{2}$}} \bar{\mbox{$\mathsf{3}$}} \bar$

※ (22) は、口頚部に平行沈線文が横走し、 胴部には、単軸撚糸文が施文されるタイプ である。

(H3Ⅱ出土)



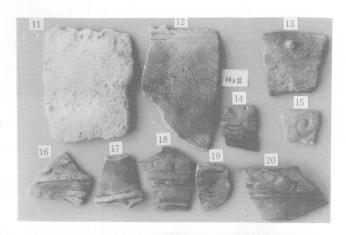


☆ (11·12、14~20) → $\left\{ \begin{array}{l} {\rm 第77$ 群土器 } \\ {\rm 大洞C_2 式} \end{array} \right\}

☆ (13) \rightarrow $\left\{ + 腰内 \, V \, \exists ? \right\}$

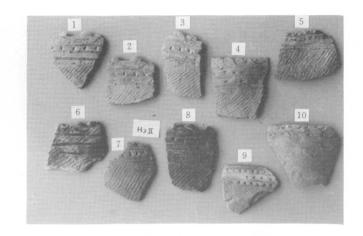
(この十腰内 V 式は、わずか 2 片の出 土であるため、群別せず)

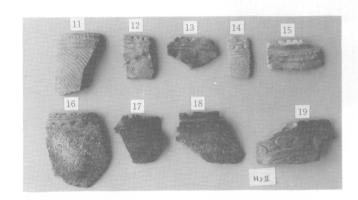
※ (14~20) は、精製土器。



15 hand 1 1 1 100 of 4 10 had the 5 hald 1 1 1

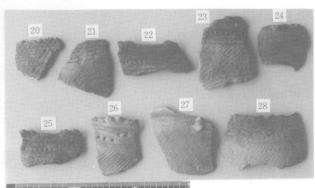
(H3Ⅱ出土)





$$☆ (20~28) →$$

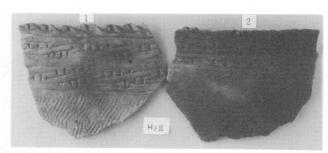
$$\begin{cases}
第7群土器 \\
大洞C1式
\end{cases}$$

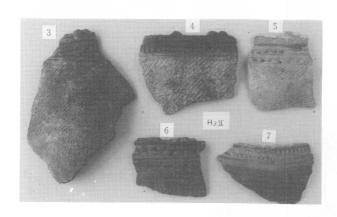


15 45cm 1 4 4 10 4 4 4 10 5 4 4 4 4

(H3Ⅱ出土)

※ (1) は、大洞B・C~大洞C1 式の中間か?



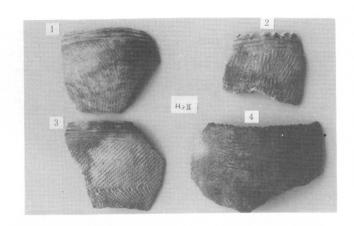


☆ (9~13) → $\left\{ \begin{array}{c} \hat{\pi} 8 \, \text{群土器} \\ \text{大洞 C}_2 \, \text{式} \end{array} \right\}$

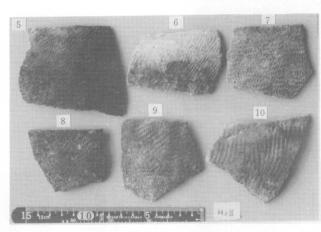
※このうち、(9) は無文のもので、 (10~13) は、口縁直下より斜行縄 文が施文されるタイプである。



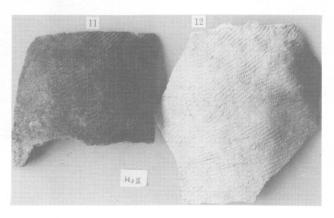
(Н3Ⅱ出土)



** (5~11) は、口縁下より斜行縄文が施文 されるタイプ。

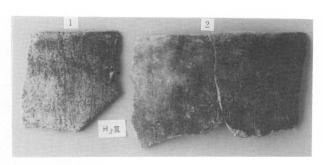


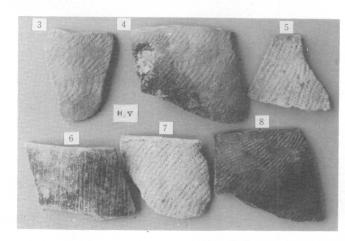
- ※(1・2)は、平行沈線文と斜行縄文、 羽状縄文の施文されるもの。
- ※ (2・4) は、口縁が小波状を呈し、
 - (2) は平行沈線文と斜縄文、
 - (4) は、横走縄文が施文されるもの。



(Н3Ⅲ、Н3Ⅴ出土)

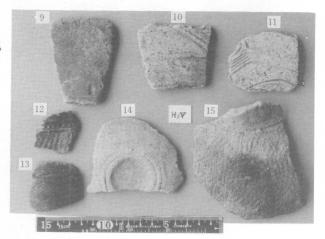
※これらは、口縁直下より条痕文が施文されるタイプである。



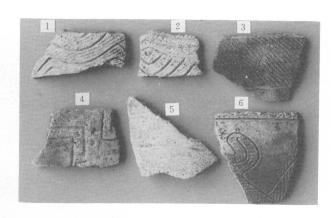


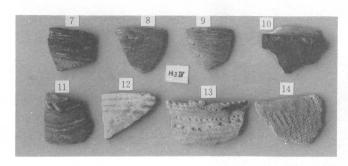
☆ (12·13) → $\left\{ \begin{array}{l} \hat{\pi} 7 \ddot{\pi} \pm \ddot{\pi} \\ \\ \div \ddot{\eta} C_1 \vec{\chi} \end{array} \right\}$

☆ (14·15) → $\left\{ \begin{array}{c} \hat{\mathbf{x}} & \hat{\mathbf{x}} & \hat{\mathbf{x}} & \hat{\mathbf{x}} \\ \\ \hat{\mathbf{x}} & \hat{\mathbf{y}} & \hat{\mathbf{x}} \\ \end{array} \right\}$



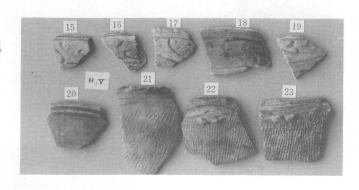
(H3 V出土)

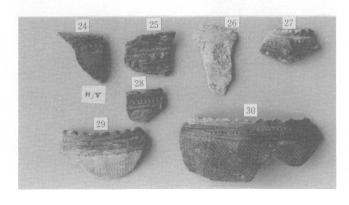




☆ $(15\sim19, 21\sim23)$ → \begin{cases} 第7群土器 大洞C1式 \end{cases}

※(15~17)は、精製土器



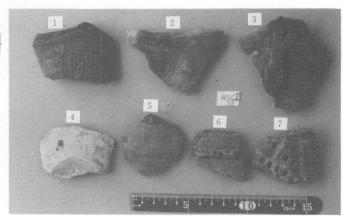


$$☆$$
 (24~30) →
$$\left\{ \begin{array}{l} \hat{\pi} 7 \, \# \pm \ddot{\pi} \\ \\ \pm \hat{\pi} C_1 \, \vec{\pi} \end{array} \right\}$$

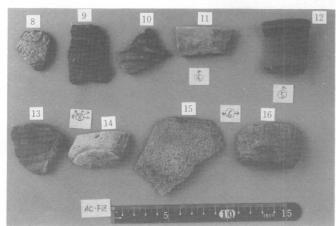
(ASC区)

$$☆$$
 $(1 \sim 3 \cdot 6)$ → $\begin{cases} 3 群土器 \\ + \hline{mph Ix} \end{cases}$

※ (3) は、中期末か?



 $(AC \sim F \boxtimes)$



☆ (8·13)→第3群土器(十腰内I式)
☆ (9·10·15)→第8群土器(大洞C2式)
☆ (11) →第4群土器(十腰内I·Ⅱ

式の中間型式)

☆(12)→第12群土器(須恵器)

☆ (14) →第11群土器 (土師器)

☆ (16) →第1群土器 (円筒下層式)

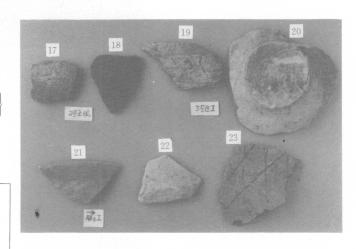
● 例 ⑧ の⑧はグリット番号

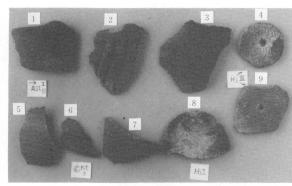
(2号土壙・5号住 I・A N 4 I)

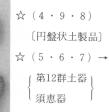
☆ (17) →縄文土器

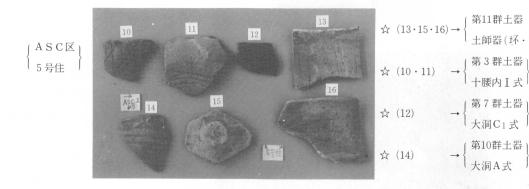
$$\diamondsuit$$
 (18·20·21·22) →
$$\left\{ \begin{array}{c} \hat{\mathbf{g}}11$$
 群土器
 $+$ 計器

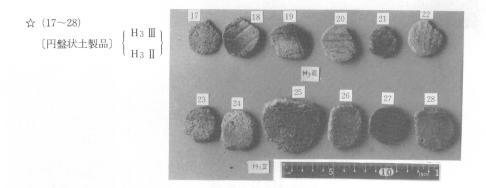
◎B.P.L₆₈~B.P.L₇₈には、各区より出土した土器を掲示した。











☆ (1 · 2) → (2 号住居址内木炭)

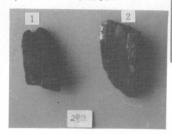
☆ (3 · 7) →土偶脚部

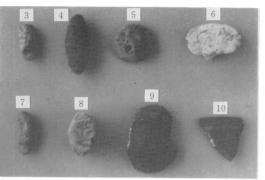
☆(4)→装身貝

☆ (5) →ミニチュア皿形 (異形土器)

☆ (6) →キノコ型土製品

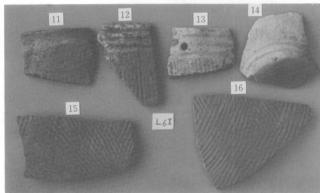
☆ (8・9) →スタンプ状土製品





☆ (10) →須恵器

(L6 I)

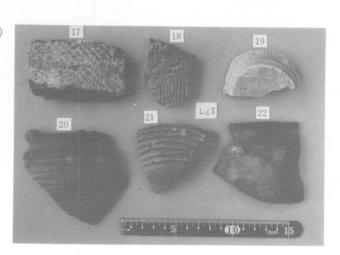


(L6 I)

☆
$$(17 \cdot 18)$$
 → $\begin{cases} \hat{\pi} 1 \, \text{群} \pm \text{器} \\ \text{円筒下層式} \end{cases}$

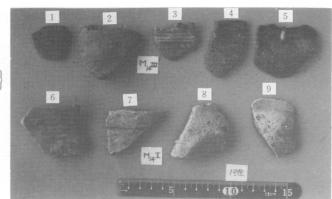
☆ $(19 \cdot 22)$ → $\begin{cases} \hat{\pi} 8 \, \text{群} \pm \text{器} \\ \text{大洞C}_2 \, \text{式} \end{cases}$

☆ $(20 \cdot 21)$ → $\begin{cases} \hat{\pi} 10 \, \text{群} \pm \text{\Xi} \\ \text{大洞A} \, \text{式} \end{cases}$

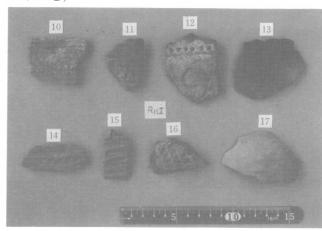


(M14Ⅲ (M4 I 1 号住居址)

$$☆$$
 $(1 \cdot 2 \cdot 6 \cdot 7)$ \rightarrow \begin{cases} 第 3 群土器 $\\ +$ $\\ +$ $\\$ $\\$ $\\$ $\\$ $+$ $\\$ $\\$ $\\$ $\\$ $\\$ \end{cases}

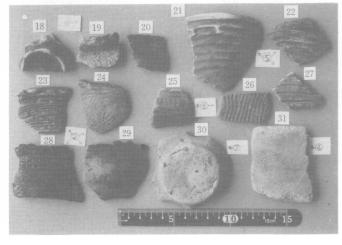


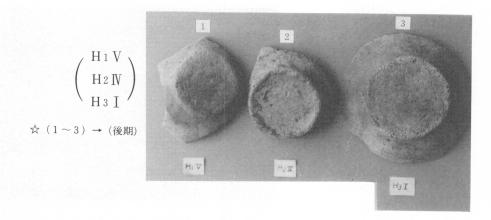
 $(R_{15}I)$

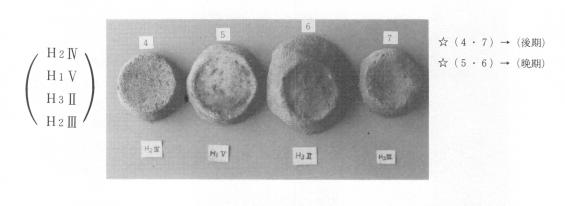


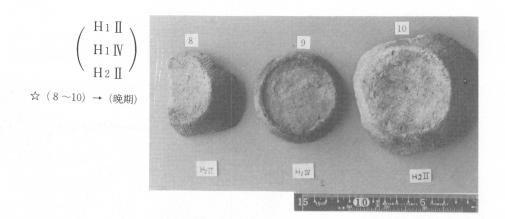
$$☆$$
 (10·11) →
$$\left\{ \begin{array}{c} \hat{\mathbf{x}} & 3 & \text{群土器} \\ + \text{IRED} & \mathbf{I} & \vec{\mathbf{x}} \end{array} \right\}$$

 $(AC \sim F \boxtimes)$

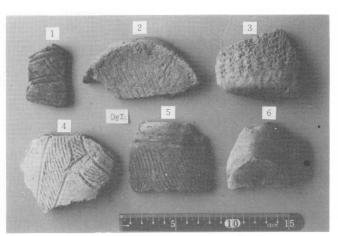




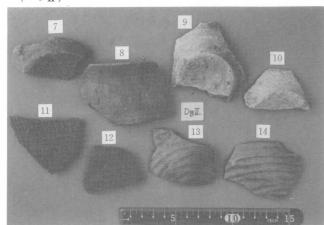




(D8I下)

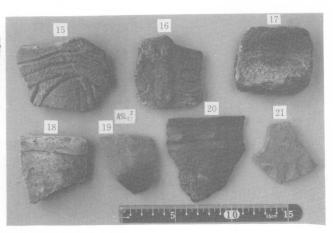


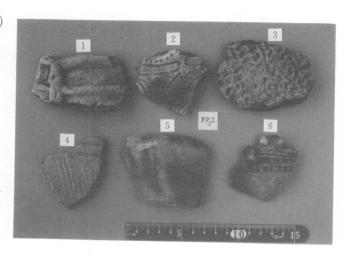
(D8 II)

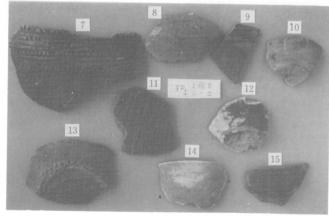


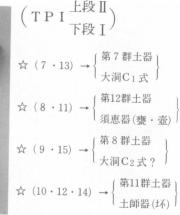
 $(ASL_{13}I)$

$$☆$$
 (15·16·18) \rightarrow \begin{cases} 第 3 群土器 $\\ +$ 腰内 I 式 \end{cases}

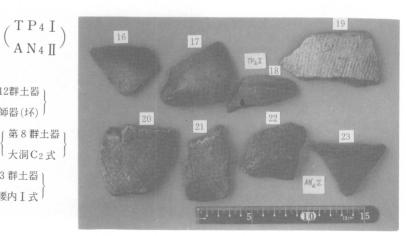




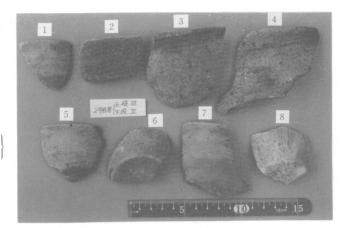




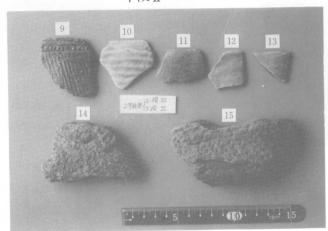




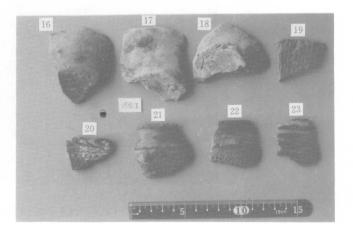
(2号住居址上段Ⅲ)下段Ⅱ



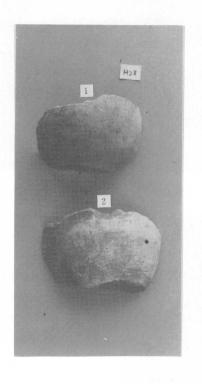
上段Ⅲ (2号住居址 下段Ⅱ)

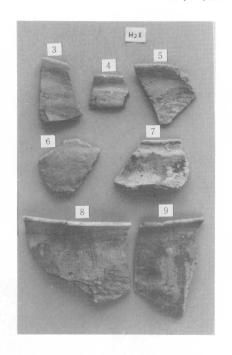


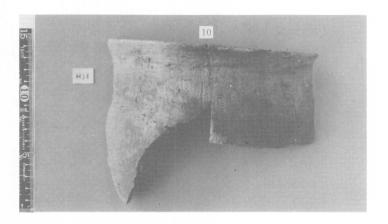
(2号住居址 I)



(H2I出土)

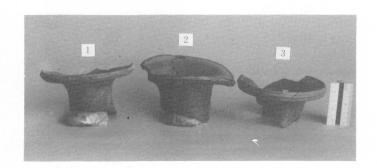


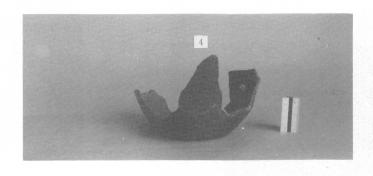




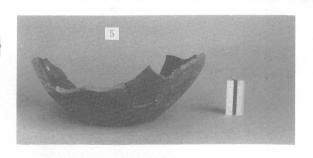
● (1~10) は、いずれも「東北北部の土師器型式」第2型式である。

(第2号住居址) 床面出土



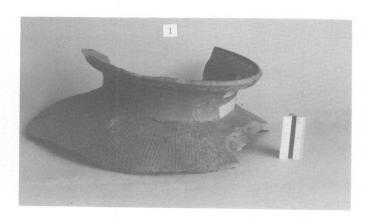


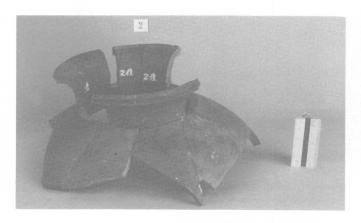
☆ (1~5) → { 第12群土器 須恵器(長頚壺) }



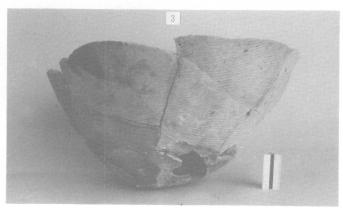
※これらの須恵器は、次の $B.P.L_{78}-(1\cdot 2\cdot 3)$ とともに、第2号住居址の床面上から出土した。 この $(1\sim 5)$ は、長頚 (細口) 壺で、器形から、前田野目窯址群出土のものと類似するものである。

第2号住居址 (床面出土





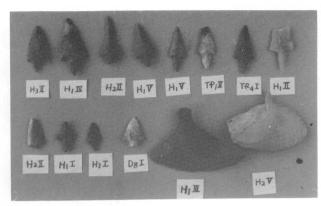
☆ (1~3) { 第12群土器 } 須恵器(甕)

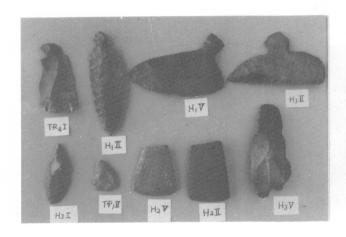


● この $(1 \sim 3)$ も、B.P.L77 $-(1 \sim 5)$ と同様、第 2 号住居址の床面より出土した一括資料である。 いずれも大形の須恵器甕であり、器形から、B.P.L78で述べた「前田野目窯址群」出土のものと同様であろう。

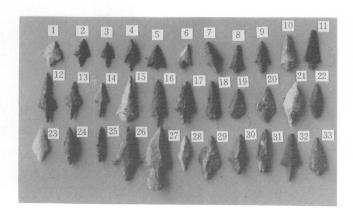
※写真内のカードは、出土グリット・出 土層をあらわす。

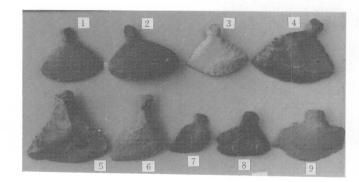
(例) (H3Ⅱ=H3グリットⅡ) 層出土の意



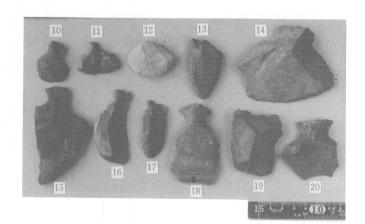


(石 鏃) 1~33

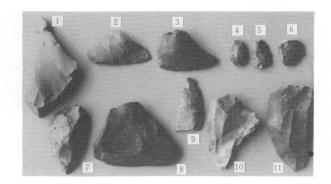


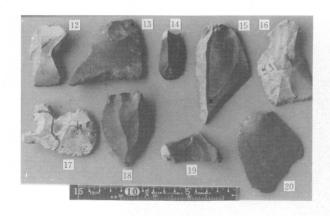


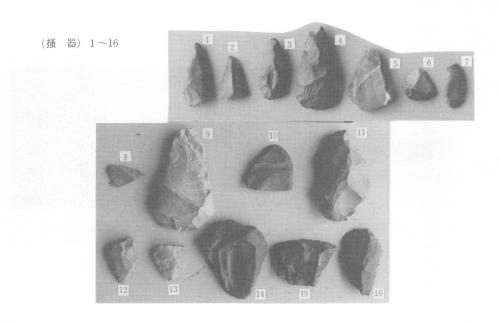
(削 器) 1~20



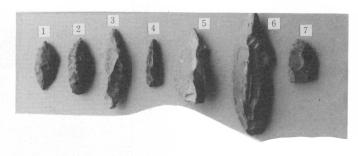
(削 器) 1~20



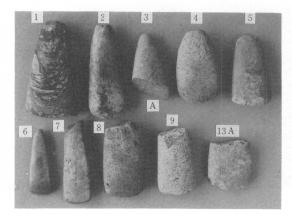




(石 槍) 1~7

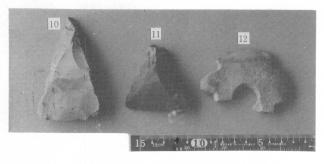


(石 斧) 1~12. (13) A



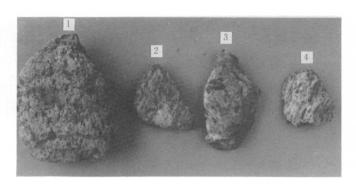


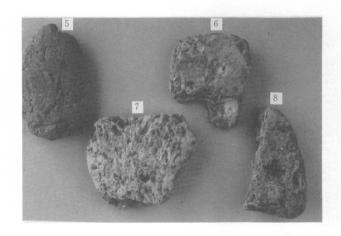
☆(13B)→半円状 扁平石器か?



(☆12 = 多頭石斧)

(浮石製品) 1~8

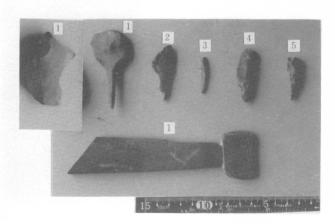




(抉入石器) 1

(石 錐) 1~5

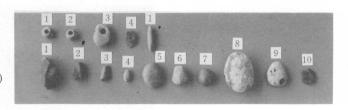
(石 刀) 1



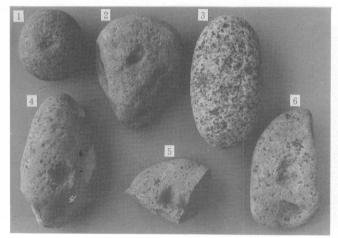
(穿孔のある小玉) 1~4

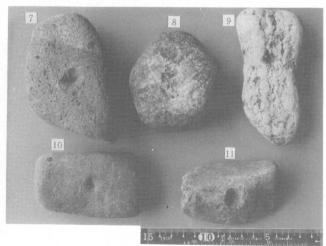
(装身具) 1

(自然石) 1~10

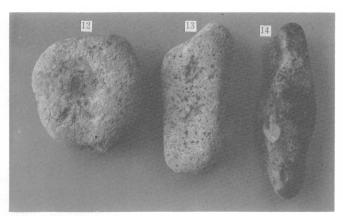


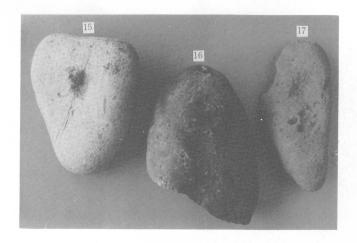
(クボミ石) 1~11

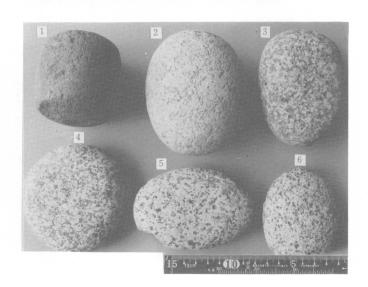




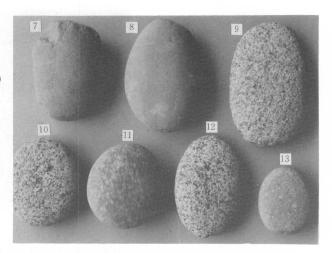
(クボミ石) 12~17 (タタキ石) 1~6

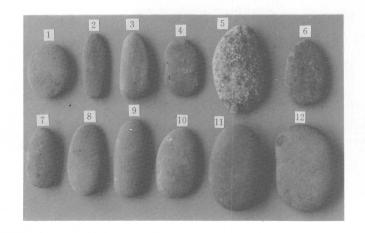




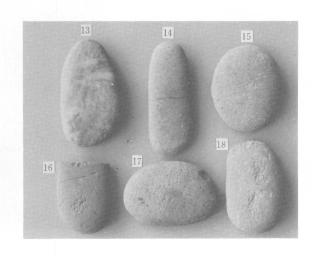


(タタキ石) 7~13 (打痕・擦痕のある扁平石器) 1~19

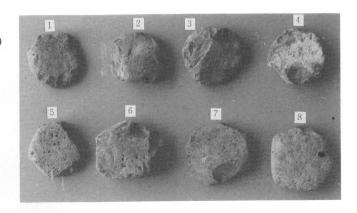


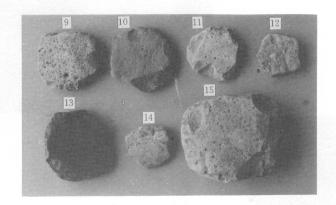


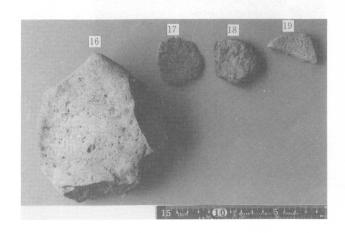


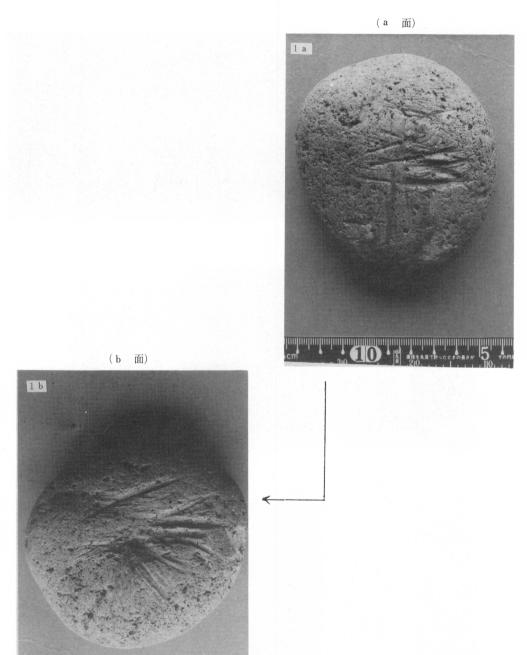


(円盤状扁平石器) 1~19

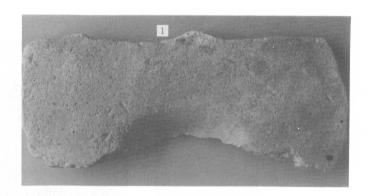


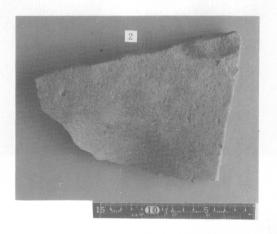


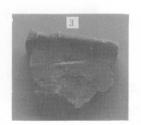




(石 皿) 1~4

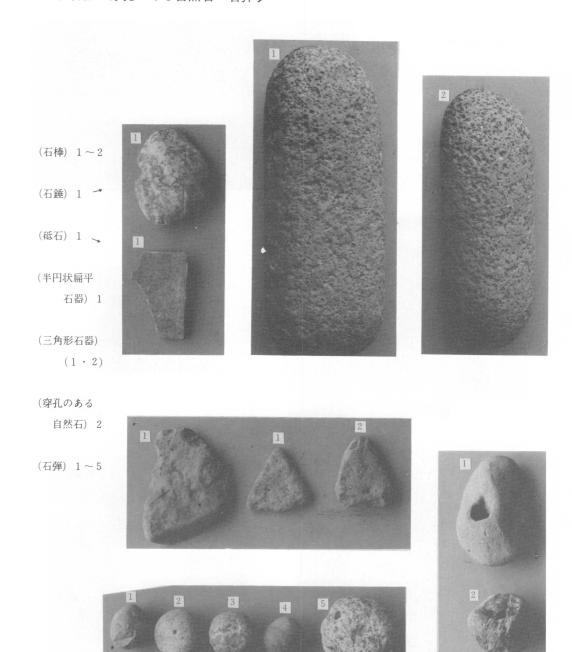






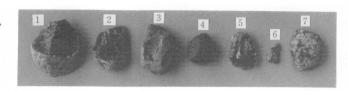






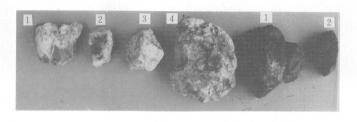
15 to 1 10 19 12 15 15

(黒曜石) 1~7

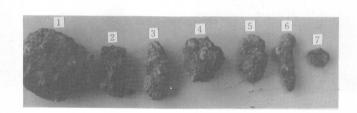


(緑色原石) 1~4

(鉄石英) 1~2



(鉄製品) 1~7



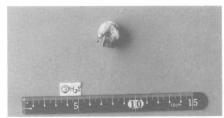
☆アスファルト付着自然石

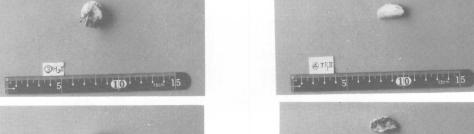
[観音林遺跡出土、骨類]

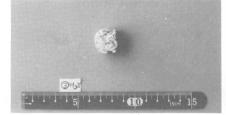
b.P.L1

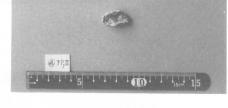


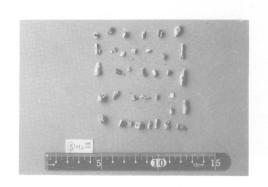


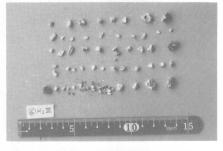


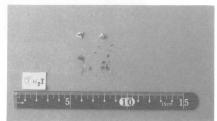












五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第 13 集 額 音 林 遺 跡 (第8次)

- ○発行年月日 平成2年3月31日
- ○発 行 者 青森県五所川原市教育委員会

代表 教育長 釜 萢 裕

○住 所 〒037 五所川原市岩木町12番地

○印 刷 闭 西 北 印 刷

